

「ホルモン受容体陽性 HER2 陰性転移・再発乳癌において、
CDK4/6 阻害剤後の治療に関する後方視的研究」
ご協力をお願い

今回、当院では、CDK4/6 阻害剤使用後に治療を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させて頂きたいと考えています。

研究の目的

ホルモン受容体陽性 HER2 陰性転移・再発乳癌治療において本邦でも CDK4/6 阻害剤が使用可能となりました。しかし、CDK4/6 阻害剤の後治療に関しては明確なエビデンスはまだありません。

そこで、今回、当院で CDK4/6 阻害剤後に治療変更した症例について検討することで、より有効な治療選択を行うことができると考え研究を行います。

研究の方法

・対象となる患者様について

2017 年 12 月～2021 年 10 月に当院乳癌外科でパルボシクリブもしくはアベマシクリブ治療後に後治療を施行した患者様を対象とします。

・方法について

上記対象となる方の診療録より情報収集し、治療期間、治療効果、予後などについて統計学的に検討します。

・研究に用いる試料・情報について

性、年齢、初回発病年齢、罹患期間、臨床検査、放射線検査、疾患関連情報(病理学的検査、Stage、治療歴、術式、転移臓器など)、有害事象などです。

・資料の管理について

情報は全て匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。本研究では、通常の診療情報の解析のみを行うもので、患者様への利益も不利益も生じません。本研究の参加に関しては、本掲示をもって文書同意に代えますが、ご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者様に不利益が生じることは一切ありません。この研究計画についてご質問などがある場合は下記までご連絡ください。

連絡先：京都第一赤十字病院 乳癌外科 糸井 尚子(代)、本田 晶子
電話：075-561-1121(代)